

教育目標の努力点・具体策の評価及び改善策 及び 評議員・学校関係者評価委員の意見等

黒丸： 本年度の重点

評価・・・A・B・C・D(それぞれ4・3・2・1点と換算)

分割点 1≦D<1.5 1.5≦C<2.5 2.5≦B<3.5 3.5≦A≦4

令和7年2月6日(木)

目標	努力点	評価項目	R5	R6	◎成果	●課題 ☆改善または継続すること (★…今年度中に改善・実施すること)	第三者(評議員・学校関係者評価委員)による評価・意見等
1 進んで学ぶ子	①新しい時代に即した資質・能力の育成	○知識・技能の確実な習得が図られたか。 ・学習のきまりの定着※学習の手引き ・個に応じた指導・支援の充実 ・家庭学習の習慣化と内容の充実 ・主体的な読書活動につながる並行読書の推進	B 3.4	B 3.2	◎定期的に学習のきまりの振り返りを行うことで、意識させることができた。 ◎毎朝の読書だけでなく、並行読書を推進したことで、国語科の言語活動に進んで取り組む児童が増えた。 ◎TTの教員やで授業の教員と協力しながら、個に応じた指導を実施することができた。 ◎家庭学習の習慣化と内容の充実を図ることができた。	●読書活動が未だ主体的ではない。 ☆図書の読書活動を推進するために児童が作成したポップを置くなど工夫する。 ●学習準備ができていない児童は、授業が始まってから教科書等の準備に出歩く。 ★次の授業の準備をした児童から休み時間にする。 ☆次年度始めの「学習目標」(4月、5月)に明記する。	1 <u>進んで学ぶ子について (知)</u> ・各項目の取り組みについて大変良いと思い高く評価できる。 ・Y o u T u b e等が優先になっているため、いかにして本をよんでもらうかを考えるとよい。 ・読書の利点を伝えていくとよい。 ・与えられるのではなく自分で本を選んでみるなどして、読書へのきっかけを作るとよい。 ・読書を通して知識や興味を広めてほしい。 ・多様性をひろげていく上で、いろいろな本を読んだ方がよい。 ・得意、不得意があると思うので、無理に勧めるのではなく、その子の得意なものにフォーカスをあてて伸ばしていければいいと思う。 ・I C Tで効率が高まるが、児童の学力も高まるのかを考えるべきである。 ・夏休みの宿題もI C T化されて採点等が効率化されて良い面もあったが、本人が何をやっているのか親として捉えにくい点もある。 ・宿題などで、ロイロノートやドリルパークなどを積極的に取り入れるとよい。 ・I C Tに加えてA Iの分野も広がっているので使い方を考えていく必要がある。
		○思考力・判断力・表現力の育成が図られたか。 ・思考力・判断力を育む発問や学習活動の工夫 ・自分の考えを表現する場の設定	B 3.4	B 3.0	◎授業形態をペアやグループにするなど工夫しながら自分の考えを表現する場が設定してある。 ◎教科横断的な授業の展開に努めた。 ◎昼の校内放送で学習したことを発表できるようになり、目的意識をもって自分の考えを表現する機会が設けられている。 ◎個人で考える場、グループで話し合う場等、場を工夫した学習活動を考えることができた。 ◎国語科で学んだ話し方、メモの取り方などを用いて、グループでの話し合いを行ったり、また、校外学習や生活科の野菜の観察にも生かすことができています。	●学年間で理解・推進に差があった。 ☆思考力・判断力・表現力を育成するために、4・5・6月に研修を設けたり、相互授業参観をしたりする。 (思考力・判断力・表現力を育成する場面において、教師だけの話が中心になっていないかなどの視点で授業を振り返り、授業改善を目指す。)	
	②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善	○学び合いのある授業の展開ができたか。 ・「めあて」「課題」「振り返り」の適切な設定 ・学校課題の推進 ・学力向上推進リーダーとの連携 ・対話・協働的な学習展開の工夫	A 3.5	B 3.1	◎「めあて」「課題」「振り返り」として、その単元や学習でどんな力を育成するのかを念頭に置いて授業に臨むことができた。 ◎単元の見通しをもたせ、本時のめあてを児童に考えさせることができた。 ◎学力向上推進リーダーが授業を行ったり、毎回の授業を反省したり、次回の授業に生かせるような話し合いができています。 ◎ふり返りを書く時間の設定にばらつきが見られるが、学校全体として同一方向を目指して取り組むことができていた。 ◎学力推進リーダーからのアドバイスをもとに、すぐに授業の見直し、改善を図ってきた。	●振り返りは毎時間取り組めていないので努力が必要である。 ★振り返りの仕方について早急に共通理解をする。また、年度始めの職員会議でも、学習指導主任から周知を図る。 ＜例＞言葉で分かったことや次時に取り組みたいことを書く。 ＜例＞算数などでは、時として類題を解いて立式やその説明を行うことも振り返りとしてもよい。	
		○主体的な学びに向かうI C Tの活用を実践できたか。 ・学年に応じた児童のI C T活用能力の育成 ・授業支援クラウドや思考ツール等の効果的な活用 ・自分の考えを表現したり、協働的に活用したりする場の設定	A 3.5	B 3.3	◎発達段階を考慮し、学年の実態に応じたI C Tのスキルを継続的に取り入れている。 ◎ロイロノートで新聞を作成したり、ミライシードで学習を進めたりするなど、I C Tを活用することができた。 ◎児童自身の学びを振り返ることができるようにロイロノートを活用している。他学年へ授業の内容を共有する際にもI C Tを用いて授業を行っている。	☆さらにロイロノートやドリルパークの活用の推進を図る。 ＜具体策＞ ・月に一度、学習指導についての説明の中で、それぞれの教師のI C T活用の事例を伝えてもらうなど、効果的な活用の事例を紹介し合う時間を設ける。 ・相互授業参観の際に積極的にI C Tを活用する。	

2	思いやりのある子	❶心の教育の充実	○道徳教育の推進が実践できたか。 ・考え・議論する道徳の授業の研究と実践 ・成長の見取り（評価）の工夫	B 3.4	B 3.1	◎価値項目を念頭に置いて、児童が考えを深める発問や授業内容を考えて取り組んでいる。 ◎ワークシートを活用し、毎時間、自分事として考えられるような工夫をするとともに、相手の意見を受容的に受け入れられるように話し合いを設けている。 ◎道徳ファイルにワークシートを綴り、継続した見取りができるようにしていた。 ◎道徳の授業において、考えるポイントを絞ってお互いの気持や考えを伝え合ったり、考えたりという時間の確保に努めた。	★評価の工夫を行うために、「特別の教科 道徳」としての評価の研修を充実する。 ☆道徳ノートを活用したり、ロイロノートやワークシートなどによる、感想文や振り返りなどを蓄積したりして指導や評価に活かす。	2 思いやりのある子について（徳） ・あいさつができていないということはどういうことを考え直すとよい。 ・地域（町図書館など）では、とくに中学生があいさつを積極的に行い素晴らしいと思う。 ・大人でも相手を警戒してあいさつしにくい場面があるが、子どもたちは積極的にあいさつをしている姿をみて感心した。大人からもあいさつを心がけるようにするとよい。 ・あいさつの本当の意味などを伝えるよい。 ・以前は登校班、下校班の人数が多かったこともあり、大人が恥ずかしくなるくらい大きな声であいさつができていたと思う。子どもたちが恥ずかしいと感じないためにも、大人からあいさつを心がければ自然とあいさつが恥ずかしくなくなるのではないかと思う。また、高学年のあいさつにつられて低学年ができるようになると思われる。 ・あいさつは地域によって、考え方、取り組み方が違ってくる場合もある。 ・あいさつが打算的・機械的になってしまっは意味がないと思われる。 ・教師が朝、昇降口などであいさつをしている姿は、大人からあいさつをする姿としてよい。子どももだんだん心を開いてくれると思われる。 ・2組の児童だけでなく、各クラスの中で、個別の支援を要する児童への支援の仕方について全職員で考えていくとよい。
			○相手を思いやる心の醸成ができたか。 ・人権が尊重された言語・学習環境づくりの推進 ・人権意識を高める授業の実践 ・船生小の約束の定着（あいさつ運動の推進） ・家庭との連携の強化	B 3.3	B 2.9	◎毎月の学年だよりにて、道徳の授業での児童の発言や考え方を記載し、共有している。 ◎授業中、休み時間など相手を思いやる人権を尊重した学習環境づくりができていた。 ◎担任が人権感覚をもって子どもたちと接することを日々意識することができた。	●あいさつの意識が低く、あいさつが出来ていない ★あいさつの必要性・意味について指導を行い、意識の向上を図る。 ☆来年度は、児童が主体となり代表委員会で話し合うなどして改善を図る。 ＜例＞あいさつ運動の実施 ☆船生小として頑張っていかなくはいけないものとして、「あいさつ」を取り上げ、各クラスの学級活動での話し合いの場面を設ける。 （なぜ、あいさつはするのか。あいさつすると良い点は何か。個人でできること、クラスでできることは何か。）	
	居がい感のある集団づくり	②居がい感のある集団づくり	○支え合う学級集団・仲間づくりの推進が行えたか。 ・学業指導の充実（帰属意識・規範意識の高い学級づくり） ・縦割り班活動（さわやか班）・児童会活動の充実 ・Q－U検査等諸検査の活用	A 3.6	B 3.2	◎学業指導に関する視点が昨年度よりも意識されてきた。 ◎縦割り班活動では、上学年の児童が下学年の児童の面倒を見る、という関係性がよくできている。 ◎クラスの課題は、その都度みんなで話し合って考えるようにした。また、日頃から子どもたちの話をよく聞くよう努めた。	●係・当番活動が機能していないと感じる場面も見られた。 ★学活で話し合い場面を設け、係・当番活動の改善に活かせるようにさせる。 ・他人ではなく、自分でできることを考えさせる。 ・教師が声かけをして活動するのではなく、自分たちで主体的に活動できるようにさせる。	
			○児童一人一人の個性の伸長を図ることができたか。 ・多面的な児童理解・自己肯定感を高める指導の充実 ・児童指導上の諸問題に対する予防的な対応と、外部機関も含めた組織的対応の充実 ・日常的・傾聴的教育相談の実施 ・特別支援教育の充実（「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」の作成と活用）	A 3.6	B 3.4	◎問題の早期解決など報・連・相の連携で行われた。 ◎自己肯定感を高める指導の充実に取り組んでいる。 ◎児童指導連絡会議がうまくいった指導の仕方を共有する方針になったことで、指導の充実につながっていると思う。 ◎クラスの人間関係の問題に対して、学校組織で対応できた。 外部機関とも繋ぐことができ、継続的に対応している。	★特別支援教育の指導の充実 ・2組の児童だけでなく、各クラスの中で、個別の支援を要する児童への支援の仕方について全職員で考えていく。	

3 健康でたくましい子	①たくましい気力・体力の向上	○運動量のある教科体育の推進を図ることができたか。 ・学習カード、めあてカード等の効果的な活用 ・体を動かすことに喜びを感じられる体育学習の推進	B 2.9	B 3.1	◎児童が主体となって取り組めるようになってきている。 ◎持久走大会頑張りカードが先生たちの家を目指すというコンセプトになり、児童に大変好評で、意欲的に取り組んでいた。 ◎学習カードを工夫し、より児童が楽しんで取り組めるものを作成した。 ◎技能の向上を目指す学習カードが有効的に使用されていた。	★体育学習カードのデータ保存場所の周知によって、継続して活用できるようにする。 ☆6年間継続して、技能の向上が分かるようなワークシート、または、児童の技能のレベルが次年度に引き継げるプリント等を作成する。
		○年間を通した体力づくりの実践が行えたか。 ・チャレンジタイムの活用 ・一人一人がめあてをもって取り組める体力づくりの実践 ・ボールや走を中心とした運動遊びの奨励	B 3.1	B 3.1	◎一人一人がめあてをもって取り組めるようになってきている。 ◎学習カードや持久走カードが意欲の継続につながっていた。 ◎持久走がんばりカードは、子どもたちにとって意欲的に走る良い手段だったと思う。	●計画的・実質的な体力づくりに欠けた。 ☆チャレンジタイムでは、見通しを明確にした上で委員会活動を軸に展開するなどして、進行を児童が行うようにする。 ●夏の暑さでチャレンジタイムが実施できなかった。また、実施するのかしらないのか、曖昧な時が多かった。 ☆チャレンジタイムの実施を週1回にする。 ☆体力づくり推進するために、その遊びの推奨を呼びかけていく。
	②保健・安全教育の充実	○保健指導・保健学習の充実が図られたか。 ・健康診断、発育測定、体カテストにもとづいた健康指導の実施 ・養護教諭との連携による保健学習の充実	B 3.3	B 3.2	◎歯みがき指導や手洗い教室の実施ができた。 ◎健康指導の実施ができています。	★歯磨きの指導を今後も継続していく。 ☆歯の治療を促すために、未治療の児童を対象に、年に2回の通知を出すようにする。
		○命を守る安全教育の徹底できたか。 ・安全意識の高揚（学級活動・行事等） ・様々な感染症に対する予防の推進・交通安全教室、様々な場面を想定した避難訓練の実施 ・安全な登下校指導の徹底（スクールバス・徒歩通学の約束・マナー）	B 3.3	A 3.5	◎今年度は、防火戸を閉じた状況など様々な場面を想定した避難訓練が実施できている。 ◎学校全体として、命を守る安全教育の徹底に努めている。 ◎交通安全教室など、安全指導は計画的に適宜実施できた。	☆登下校の指導については学級指導や個別指導を充実させて、今後も継続的に行う。
		○食育指導の充実が図られたか。 ・給食指導（マナー・ランチルーム活用・衛生指導）の推進 ・健康的な食生活のあり方についての指導の推進	B 3.3	B 3.0	◎静かに会食できている。 ◎安全に給食指導ができています。	●食事のマナーに個人差がある。 ☆給食指導・栄養指導に関しては、今後も発達段階に応じて、各クラスで計画的・継続的に指導していく。
	3健康でたくましい子について（体）					
	・学校の体育学習の他、個人の得意分野でのスポーツ活動、家庭での簡単な体操などで体力をつける方法もあるため児童に伝えるとよい。					
	・クラスによって室内温度が違うように感じたので、（健康面と学習効率を上げる面において）一定の温度にした方がよいと思う。					

4	よく働く子	①勤労意欲の醸成	○清掃指導の推進が図られたか。 ・清掃への動機付けと時間いっぱい取り組む清掃活動の工夫 ・清掃の手順、用具の使い方の徹底	B 3.3	B 3.1	◎清掃時間一生懸命働く児童が多い。 ◎時間いっぱい取り組むことができている。 ◎子どもたちはよく清掃に取り組んでいると思う。また、6年生の低学年に丁寧に教える姿や励ます姿は素晴らしいと感じている。	☆清掃用具の整備を行い、清掃活動の充実を図る。 ・必要な用具の購入。 ・清掃用具の在庫の周知による有効活用。 (ほうき、黒板消しクリーナーなど)	4よく働く子について(勤)
			○勤労体験の推進が図られたか。 ・児童が主体的に取り組む花壇・教材園活動の工夫 ・クリーン活動の推進	B 3.2	B 3.2	◎教材園は、とても意欲的に世話をすることができた。 ◎定期的に花壇の整備が行われた。校庭の除草作業にも一生懸命取り組む様子が見られた。	☆教材園については、来年度以降も外部ボランティアや地域の方とも協力して取り組めるよう積極的に働きかける。	
		②キャリア教育の充実	○年間指導計画に基づいた指導の実践と充実が図られたか。 ・キャリア教育との連携を図った各教科・各領域・学校行事等の実践。 ・係・当番活動・委員会活動の活性化 ・キャリアパスポートの活用	B 3.3	B 3.1	◎委員会活動では、少ない人数でも上手に活動を行うことができた。 ◎年間指導計画に基づき、実践できている。自主的に取り組む姿も見られた。	☆少ない人数でも委員会活動が充実できるように、活動内容を精選していく。 ☆各種行事については、年間指導計画に基づいて、各委員会の児童が見通しを持って主体的に取り組めるようにする。	
5	学校経営・施設設備	①安全管理の徹底	○施設設備・通学路の安全管理を行えたか。 ・安全点検の実施と措置 ・通学路を含む防犯安全パトロールの実施	A 3.5	A 3.5	◎計画的に安全点検をしっかりと行い、教室内で危険と感じた箇所に関しては、報告・改善が行えた。 ◎安全点検後、的確に処理し安全管理ができている。	☆スクールバスの乗車指導は、年度始めに行い、その後は、登校班ごとの月に一度の反省時に担当が指導を行うようにする。 ☆生活部による防犯安全パトロールの報告をもとに、通学路の状況を把握し、指導に活かす。 ★安全点検時は、児童の視点も取り入れて行うことによりさらなる安全の徹底を図る。	5学校経営・施設設備について
			○危機管理の推進が図られたか。 ・予知・予防と発生時への準備 ・迅速な対応と危機管理意識の高揚	A 3.5	A 3.5	◎危機管理が徹底されている。 ◎安全点検では細かいところまで目を配り、事故防止に努めていた。	★児童指導上の諸問題や感染症対策も危機管理として捉え、未然防止に努める。 ・迅速かつ的確な報告・連絡・相談を行う。 ・二酸化炭素測定器、加湿器、暖房機器等の点検も適宜行う。	
		②地域とともにある学校づくり	○学校公開の推進が図られたか。 ・学校だより等の発行・ホームページの活用 ・オープンスクールの実施 ・動画配信等、ICTを活用した学校公開	A 3.5	A 3.8	◎学校の取り組みが分かりやすく公開されている。 ◎ホームページがこまめに更新されており、学校の教育活動について保護者や地域の方に伝えることができていた。 ◎計画に沿って、または随時必要に応じて実施されていた。	★今後も継続して学校の様子を積極的に公開していく。 ☆オープンスクールについての検討を行う。 (内容、時期、日程等)	
			○地域連携の取組と推進が図られたか。 ・地域学校協働本部支部協議会との連携による地域協働連携活動の推進と充実 ・地域連携教員を中心とした協働学習の推進	B 3.3	B 3.4	◎地域の方々と連携し、授業を展開することができた。 ◎総合的な学習の時間に地域ボランティアの方からの説明を直接受けることがとても良い機会だった。 ◎地域コーディネーターが必要書類の準備や連絡を行い、円滑に校外学習等を行うことができた。	☆次年度からも継続して地域の「ふるさとコミュニティー祭り」などに協力していく。 ☆次年度からも積極的に地域の学校支援ボランティアと連携を図っていく。 ＜例＞水泳学習指導、ミシン指導、出前授業(各教科)、校外学習での指導、ウォーキングボランティア、スポーツ活動指導等	